

同志社大学

2009年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2010年3月10日提出

所 属	職 名	氏 名
文学部	准教授	北 康 克
研 究 題 目	日本古代王権の成立と展開に関する研究	
研 究 成 果 の 概 要	<p>本年度は、上記の成果を纏めるべく、これまで日本史研究会古代史部会や史学会大会などで口頭発表しつつ深化させてきた「国造制と大化改新——大化前代の支配構造——」と「冠位十二階・小墾田宮・大兄制——大化前代の政権構造——」とを原稿にまとめて、学術雑誌に投稿中である。また、天皇靈に対する仏教の関与という視点から「国忌に関する若干の考察」(続日本紀研究会例会)を口頭発表した。さらに、古代王権の転換期たる推古朝政治を主導した聖徳太子について「聖徳太子——基本史料の再検討から——」(鎌田元一編『古代の人物』第一巻)を公表、笠井昌昭・石毛忠ほか編『日本思想史辞典』山川出版社、<84項目執筆>)も刊行された。なお、これまでに引き続き平安時代の儀式書『西宮記』の諸写本の逐条審議を進めた。あわせて日本法制史研究の基礎を築き、古代の部民制・国造制研究の出発点をなした中田薫に対する史学史的な研究を進めている。</p>	